

Dr.ひろみの

# ハッピー子育て

# か る た

ひろば

みなさん、こんにちは。このハッピー子育てかるたシリーズも2年目、子育てひろばとしては8年目になります。小学1年生だった子どもは中学2年生ですね。みなさんのお子様も大きく成長し、様々なことがあったと思います。誰も常に順風満帆とはいきません。谷があるからこそ、山から見る景色は素晴らしく、立ち止まるからこそ、歩き出せる幸せをかみしめるのです。この瞬間が尊いですね。



☆読み手☆

鈴木 裕美 (すずき ひろみ)  
香川大学医学部 小児科専門医

22

ときには 親の失敗談

一緒に笑って 楽しもう

「自分も失敗して大丈夫」

子どもの学びは 失敗から

21

子どもに

話を聞いてばかり

質問ばかりで

うっとうしい



## 今月のかるた解説



進級、進学で子どもの様子が気になり、子どもに会うとすぐに「今日はどうだった?」「何したの?」「友達できた?」など、矢継ぎ早に質問攻めしてしまいがちですね。楽しいことなかった、嫌なことがあって悲しい、周りに気を使ってクタクタ。勉強難しい、友達できない。。期待されるようないい話ができなくて、家でもしんどいかもかもしれません。「別に」「ふつう」「びみょう」「なんで聞くん?」、または聞こえないふり。

会話は親子で必要ですが、子どもばかりが話題提供しなくてもいいと思うのです。子どもだって大好きなお父さん、お母さんの話が聞きたいです。例えば子どもの時、うまく友達ができなかったことや誤解されてしまったこと。また笑える失敗談もいいですね。溝に落ちてランドセルごと水につかってしまったとか、給食で食べられなくて机の中に隠していたら、腐ってカビが生えていたとか(笑)。自分でなくても、昔の同級生の話でもいいと思います。そんな失敗談に子どもは心底ほっとするものです。なんだ、失敗してもいいんだ、みんなやらかしてるんだと。そんな失敗談から励まされたり、自分は気を付けようと学んだり。笑いほど人を勇気づけるものはないですね。

Dr.ひろみの

# ハッピー子育て

# か る た

ひ ろ ば

みなさん、こんにちは。5月はゴールデンウィークが明けて、登校がしんどく感じ、行き渋りが見られる時期です。ガス抜き息抜きさせつつ、ねぎらいながら、こころのコップがあふれださないよう注意深く様子を見ていきましょう。親子で何もせずに、1日中パジャマで過ごし、アイスをたくさん食べる日があってもいいと思います。ちゃんとしない「ぐーたらデー」を親子で楽しんでみませんか。



☆読み手☆  
鈴木 裕美 (すずき ひろみ)  
香川大学医学部 小児科専門医

24

**た**ら  
水を求めて 動き出し  
光を求めて 外に出る



23

**ね**が腐るほど  
水をあげず  
二十四時間  
光をあてない



## 今月のかるた解説

子どもにあれやこれやと世話を焼いたり、失敗する前に手や口を出していると子どもが自立できない(水をあげすぎて根が腐る)ことになります。そして、子どものやることなすこと全てに注意を向けて、ダメ出しして注意したり、叱ったりすること(24時間光をあてること)は親の顔色ばかりみて、自分の意思や自立心が育ちません。

例えば、私の知り合いで不登校のお子さんを複数育てた方がいます。黙って信じて見守っていると、どの子どももしっかり休んだ後は、こころにエネルギーがたまってきて、自分で考えだし、一步を踏み出そうとする。親が焦って急ぎ立てている間は、殻に閉じこもって外に出てこないと話されていました。

「あれがほしい」「これをやってみたい」というこころの奥からでてくる自発的な要求は、周囲から無理強いされず、適度な距離感で見守られながら、自分の気持ちを尊重される環境にいて初めて生まれてくるものです。ほしければ、足りなければ、自らそれを求めて動き出し、勇気を出して外に出るのです。愛情ゆえの行動もやり方を間違えると、子どもの根を腐らせ、健やかな育ちをはばんでしまいます。子どもの自発的で前向きな行動を生むためには、親の忍耐と信じる勇気が必要なんですね。

